フレイル

ICF（国際生活機能分類）の考え方とフレイル

兵庫県立大学大学院経営研究科　筒井　孝子

KEY WORDS
●ICF
●frailty
●分類
●評価

The concept of ICF (International Clasification of Functioning, Disability and Health) and frailty.
Takako Tsutsui（教授）

はじめに：ICFの開発と実用化に向けての課題

2001年５月にジュネーブで開かれた第54回世界保健機関（World Health Organization；WHO）総会で国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health；ICF）が採択され，約16年が経過した。ICFの原点は，1893年死因分類を目的に国際統計協会により作成された国際疾病分類（International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems；ICD）である。これは10年ごとに修正され，1948年の第６回修正からは，WHOの事業となり，内容も充実してきた。現在はICD-10が使用され[注1)]，疾患統計や死亡統計の国際比較が可能となるとともに，各種の補助分類「WHOの国際分類ファミリー」が開発されてきた。

一方，20世紀後半には，①医療の著しい進歩と公衆衛生的な環境の改善による急性感染性疾患の激減，②寿命の延長と慢性疾患の増加，③寿命の延長に伴う高齢者の増加，④医療の進歩による障害者の増加など，疾病構造の著しい変化に伴い，先の疾病の分類だけでは不十分であると考えられるようになってきた。

この背景には，障害者や障害そのものに対する社会の意識にも変化があり，1970年代からの障害者の人権尊重を目指した障害者運動の進展や，疾病そのものだけでなく，「疾病の諸帰結」をみる必要性が謳われたことがあるものと推察される。

このため1972年からは，WHO内で活発な議論がなされ，1980年にはICD

注1) ICD-11は，2016年10月に東京で開催された「ICD-11改訂会議」にて，「加盟国レビュー用ICD-11（2016年版）」を公表された。その後，2017年６月を締め切りとして，加盟国レビューが実施され，その後のフィールド・テストを踏まえ，2018年にICD-11が公表されることとなっている[12)]。

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.